

平成28年度 各区地域包括支援センター運営協議会（第1回～第4回） 委員からの意見（抜粋）

- 主な議題 第1回 前年度報告・今年度計画の承認
 第2回 決算報告・評価(前年度4月～3月分)についての承認
 第3回 各包括のネットワーク構築に向けて取り組み報告会等
 第4回 地域ケア会議から見えてきた課題と今後の取組み・年間総括
 (ただし、地域ケア会議から見えてきた課題についての意見は別添資料に掲載)

区	回次	意見要旨
北区	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔の分野でも多職種連携を行っていききたい。 ・認知症相談ダイヤルのチラシがわかりやすいのもう少し部数がほしい。 ・認知症の介護家族からの相談もあり、包括支援センターのことをしっかり伝えていききたい。 ・大淀寮が2年後に閉鎖予定。生活困窮者の行先に困ることになる。特に若年者の支援に困る。前もって支援できる体制を作る必要があるが、各関係機関との連携を図りながら支援のノウハウを培っていききたい。 ・ケアマネとして地域ケア会議の参加回数も増えてきている。今後もしっかり連携をとっていききたい。 ・CSWや包括など多職種連携で関わるが増えてきて、北区として最近はまとまってきたと感じている。
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議や民生委員の会議など、様々な会議で地域や多職種のいろいろな方と顔を合わせる機会があるが、会議を連携の大切な機会ととらえて活動している。
都島区	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・総合相談の件数が増加。同居家族に支援が必要な事例や、多問題の事例が増えてきている ・多職種連携の会議を実施、包括を媒介として各関係機関が繋がっていく重要性も実感 ・入院中から在宅介護へのスムーズな移行に対して、医療介護連携の仕組みの構築を目指している ・食事サービス等地域に出向いたりサロンを開催して、地域との連携を図っている。 ・支援困難事例や虐待終了後の継続見守り等、地域ケア会議を実施して各機関と連携している。 ・多職種連携が必要な事例が多くなってきている。 ・地域包括ケア推進のために、27年度に運営協議会を地域ケア推進会議に位置づけた。第4回運営協議会で検討した、地域ケア会議から見えてきた課題を、区政会議の福祉部会で提案し議論をしていただいた。 ・虐待の判断と再発防止の為の支援方法をどう行うか。地域ケア会議など地域や多職種の見守り体制などの検討が必要 ・包括で全ての高齢者に支援ができるのが理想であるが、分館の地域担当保健師やケアマネなどと連携を強化し、見守っていく必要がある。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・包括・ランチの周知については、新たな関係機関に周知していくことが重要。そうすることで、相談件数が増えるなどの良い影響がでてくる。 ・認知症の事例は、活動すればするほど対応に追われてしまう。新たな取組も重要であるが、現在の地道な活動を継続することも重要。 ・歯科も在宅が求められている。包括に繋ぐなど、一緒に取り組んでいきたい。 ・認知症の事例は地域に情報を伝えてもらいたいが、現実には個人情報で困難。必要な事例は、地域ケア会議などで役割分担を共有している。 ・認知症の理解を深めていく事が、引き続き重要。
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域のニーズを把握し、その中から目標を立てて実践している。 ・顔の見える関係作りを進めている。 ・出前講座から、小さな会館での茶話会などより地域に密接した関わり。 ・男性高齢者や介護予防教室修了者など、ターゲットを絞った介入を行っている。 ・多職種連携の会議の実施。 ・小地域ケア会議を実施し、地域との連携を図る。 ・認知症高齢者の権利を守る為には、まずは認知症を正しく理解してもらうことが必要。 ・認知症サポーター養成講座を積極的に行う。 ・ケアマネ等専門職との連携を図る為の、交流会や研修会を実施 ・地域が高齢者の集まれる場所を作り、包括・ランチと協力して地域の見守りを行っている。 ・高齢者を見守っても、次の日に急変する事もある為、見守りをしている人に対するサポートが必要。 ・包括が様々な活動をしているが、地域側の活動をどう結びつけていくのか、地域も考えて活動していく必要がある。 ・公的サービスから漏れてしまう対象者を、どうサービスに繋げていくか、インフォーマルな資源の活用方法 ・地域包括支援センターの名前が分かりにくい、「高齢者の相談は包括へ」と丁寧な周知を行う必要がある。 ・町会など地域の理解も必要。 ・町会など大きな単位でなくより小さい単位での関わりが必要 ・学校選択制により地域外の中学に通うことで、地元の子供会活動も難しくなっている。そんな中で、地域の高齢者対策も考えていかないとけない難しさがある。
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・人との繋がりが煩わしくてマンションに居住している人や単身者など、地域の見守りの同意もせず孤立している人を、どのように把握するか課題。 ・地域が多く情報を持っているの、そこから情報を得ていく。また、スーパー等インフォーマルな支援がないか、本人の行動範囲を把握して、インフォーマルを含めた連携体制づくりを行う ・民生委員・地域福祉コーディネーターの役割は大きい

区	回次	意見要旨
福島区	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症のケースは、当事者よりも周囲が困っており、一人で抱え込まないで関係者で共有する事が重要であり、積極的に地域ケア会議の実施につなげてほしい。 ・地域ケア会議にかかりつけ医等の参加は有意義であり、積極的に参加をできるよう協力したい。医師会として声かけしていくので相談してほしい。 ・ブランチは、人員が少ない中、高齢者支援に積極的に活動してくれている。 ・包括、ブランチに関して、高齢者支援全般にわり積極的に活動してくれている。しかし、「認知症施策」「地域包括ケアシステムの推進」等様々な課題がある中、職員の疲弊が懸念される。必要な人員確保と研修の保障をお願いしたい。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・住民組織や関係機関と連携し、迅速に対応できており、地域からの信頼も厚い。 ・地域に定着し、相談件数も増加している。今後も包括と連携しながら活動してほしい。 ・全地域の民生委員連絡会に参加し包括の周知や地域ケア会議の参加依頼をした事により民生委員からの相談件数が増加した事は成果である。また、金融機関や住宅管理者を対象に根気強く勉強会を行ったことで、その後の支援につながっている実績もある。
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・集合住宅では、付き合いを好まない方が多く、民生委員等の受け入れも悪い。地域のサロン等にも新規参加者がなく固定されているのが現状である。包括としてサロンに参加しているが、サロンの実施方法や包括の関わり方についても、今後変更・工夫が必要ではないか。 ・包括支援センターの認知度が低いというのは以前からの課題である。パンフレットを作成し配布すると共に、今年度は介護情報誌を作成した。詳細で具体的な内容であり、うまく活用し関係機関が連携できることが望まれる。 ・認知症サポーター養成講座については周知が必要でもっと普及させてほしい。
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議を充実させる事、関係機関で情報共有する事は大切である。 ・複合的な課題のある事例が増えており、地域ケア会議でも医師やPSW、民生委員等に積極的に参加を働きかけていく必要がある。 ・支援拒否ケース、精神疾患のあるケース、認知症ケース等、地域での見守りは大変な場合が多い。家族にも地域にも限界があるのが現状である。
此花区	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・長く事例に関わると介護者側の思いに立ちやすいため、客観的に見られるようにしておくことが必要。 ・施設のケアの専門職でも、包括の活動を知らない人が多い現状があり、包括のさらなる周知が必要。
中央区	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・本人と介護者が一緒に参加できるように、ヘルパー付などのオプションをつけていくのはどうか。 ・主任介護支援専門員連絡会の講師がずっと同じ方であるが、ケアマネージャーは、多職種であり、一人に偏るのは望ましくないので検討していただきたい。(学習内容に偏りを少なくしていくための内容の提案)
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・業務委託料の返納が多いように感じるが、今後地域包括支援センターの活動にきちんと還元していけるよう、有効活用していける方策を考えて頂きたい。 ・障がい福祉サービスの受給者が年齢到達により介護保険サービスの受給ができるようになり、サービス受給が複雑になってきている。 ・地域包括を窓口ケアマネや訪問看護など、支援のスキルアップをしなければならない。 ・ケアマネの質が人生の終末期の質に関わってきており、若手のケアマネ、主任ケアマネがチームとして活動することが重要となっている。 ・若手のケアマネと主任ケアマネが連携しバージョンアップしてきているので、今後とも継続して取り組んでいただきたい。 ・チームで活動することが重要になってきている。 ・今後、医療との連携も考えていただきたい。
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとに報告会や事例等の検討会を実施したい。 ・各地域が抱える課題の共有や「地域で地域を支える仕組みづくり」を行いたい。
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・包括のことを今以上に知ってもらうために老人会や女性会、地域の食事会、ふれあい喫茶などこれまで以上に参加し、多くの人に周知していくのはどうか。また、そのような場における出前講座等を通じて顔の見える関係になっていく。
西区	第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・要支援、要介護状態にならないような活動や啓発と介護負担のSOSを早期発見し、重大な問題となる前に支援していくことが重要。見守りネットワーク等、網の目を張り、様々な手段を講じて取り組みを継続強化していくことが重要である。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方への支援の強化は最も必要。 ・「認知症の方を介護している家族のつどい」は、新たな参加者が毎回あり、参加者同士が交流出来、好評である。様々な情報を交換し、サービス利用や専門病院への受診につながるケースもあり有意義な会となっている。 ・平成27年度地域のネットワーク体制が強化され、各地域の見守りコーディネータから包括支援センターに連絡や相談が入り、早期介入ができ、深刻な問題になる前に地域包括支援センターやブランチが対応できていることは大変評価できる。 ・医療機関や薬局、関係機関への包括レンジャー(包括支援センターニュース)を職員が配布することで、気になるケースの相談が寄せられており、ネットワークづくりにもなっている。 ・今後もさらに浸透性を意識して活動し、重症化防止のためのネットワークづくりを実践してほしい。
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人への地域包括支援センターの認知度が低いとのことであるが、昨年は小学校へ出向き、福祉教育の一環として電動車いす体験等の講座報告があった。学校やPTAに働きかけ周知活動を行ってはどうか。 ・認知症の方はなかなかサービスにつながらない。繰り返し話をしたり、困っていること(書類の整理など)の支援を続けたりすると、徐々に自ら話をしてくれるようになる。
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化によりますます認知症患者が増えるため、支援の広がりや強化が必要。

区	回次	意見要旨
港区	第2回	<ul style="list-style-type: none"> きめ細かく非常に良い活動をしている。 地域では認知症は大きな問題であるが、実際に医療にかかる際には、医療機関に嫌がられることがあり、それも課題である。
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> 独居で身寄りがなく、地域とのかかわりもない要支援者をどのように把握し繋がりをつくるか。 認知症が原因の住民同士のトラブルが最近多い。受信拒否する場合は、他の疾患での受診を促す等工夫が必要。
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターの業務に、在宅介護・医療連携相談支援員もよく関与しており、これからも活動の幅が広がっていくことが期待される。
大正区	第1回	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所に対応するとすれば施設職員が不足しているのが現状。民間の事業者等とも協力していく必要がある。有償ボランティア必要ではないか。事業所が事業を継続+α地域の受け皿やボランティアがあるべきではないか。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> 今後、生活支援コーディネーターが各区に一人配置、地域の社会資源の構築が役割と課されているなかで、一人で多様な主体の社会資源を支援していくことになると言われているが、実際はなかなか難しいのではないかと。包括には地域包括ケアシステムのなかで、ネットワーク構築の役割があり対象は違うかもしれないが、今後は連携して行く必要がある。 独居高齢者の中には、地域との交流が少なく、又、町会加入をしていないマンションに住み、個人的にも町会に加入できておらず、誰にも尋ねてもらったことが無く孤独死に不安を感じている高齢者が多くいる。見守りを希望しているが何処にお願いをすればいいかわからないという高齢者もいる。北部包括や区包括の取り組みのように見守りをしてもらえる仕組みを広げていってほしい。
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化に伴い認知症に関する相談が年々増加するなか、転居による高齢者自身の認知機能の低下、自治会等地域コミュニティの崩壊など、認知症を抱えながら地域で孤立した生活をおくり、状況が深刻化するまで支援の関わりがもてない状況が予測され、早期診断・早期支援につなげるためにどうすれば良いのかという課題があげられる。引き続き地域のネットワークによる見守りの強化及び充実が必要。
天王寺区	第3回	<ul style="list-style-type: none"> 3師会共通して、住民の方が施設等へ入所してしまうと、その人の状況がわからなくなる。住民の方の状況を把握できるよう地域と連携していきたい。 近隣の方と情報交換し、気になる人をピックアップしていきたい。情報が無い人も多く、地域と連携していく必要あり。地域とのコミュニケーションも必要である。
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の理解と普及啓発の促進について、地域住民の啓発はもちろん、小学生を対象にした周知活動を実施し、子供の理解を深め、見る目の広がり期待したい。
浪速区	第3回	<ul style="list-style-type: none"> 地域とのつながりを強化するためには、大人になってからより、小中学校の時から地域活動に参加をした方が良いのではないかと。 特殊詐欺の被害防止について、地域での食事サービスの時に説明を行った。高齢者が事件、事故に遭わないよう地域と連携し対応していきたい。
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> 総合事業に移行し、予防の担い手がいるのか不安がある。地域の人を呼んで、地域とのつながりを結ぶ取り組みがなされているのか？地域資源の発掘不十分かも。そこは区役所と包括で頑張りたい。
西淀川区	第1回	<ul style="list-style-type: none"> 区内には南米ルーツの子が20%を占める小学校があるという話から、外国籍の高齢者への対応の難しさ(主には言語の問題)が現実になってきている。
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> 「高齢者に関する配達事業」及び「高齢者の生活支援」に関するアンケート結果について、貴重なデータになる、ふだん店長が店にいる商店にアンケートをとると、また違った結果が出るのでは、との意見。
淀川区	第1回	<ul style="list-style-type: none"> 包括支援センターの人手不足など、限界が見えてきており、打破するのが目標となっている。地域の報告書について、包括支援センターで報告会を行っているが、民生委員への配付も検討して欲しい。 来年度から新しい総合支援事業に移行するにあたって、包括支援センターとしてどのようにしていくか検討が必要である。総合支援事業を行っている箕面市に見学に行く予定である。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> ブランチは年々よくなってきている。ブランチを増やしていくことができればよいと思う。 健康(元気)な高齢者、地域に入ってこない方々の分析が必要である。 包括やブランチの周知については、行政でも積極的に行うべき。町会の回覧板での周知も検討が必要である。
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> 認知症になっても安心できる支援と連携が必要である。 高齢以外の課題を抱えているケースがある。本人が支援を受け入れないこともあり、当事者への啓発が必要である。地域における相談機関同士の連携、地域のネットワークづくりが必要である。
東淀川区	第1回	<ul style="list-style-type: none"> 南西部包括のアンケート調査は興味深い。包括の地域における認知度が大切。若い方の認知度が低いことが課題。 訪問介護事業で地域とのつながりのない方への対処に困るケースがある。地域ネットワークに訪問介護事業所も参加させてもらったら輪が広がるかも。地域から孤立した人が多いと感じる。 包括はケアマネ支援が役割だが、訪問介護・通所介護への支援も大切。
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> サービス付き高齢者住宅に入所される方が増えている。入所されると地域での高齢者の情報が途切れる。その後がどうなっているか気にかかる。家族だけではなく地域でも高齢者の方の面倒を見れる社会にしていきたい。

区	回次	意見要旨
東成区	第1回	・多くの会議があり、会議も縦割りの事も多く連携が必要である。
	第4回	・地域での関わりがうすくなっている。包括支援センターには頑張っていたきたい。
生野区	第2回	・若い方へのアプローチも行っており、良いことだと思う。認知症は若いうちからの働きかけが重要。
旭区	第1回	・認知症の方を支えるには地域とのつながりが重要だが、地域役員には認知症の理解がすすんできたものの一般の人にはまだまだ難しい。啓発をひきつづき行って欲しい。
	第2回	・区包括の取組みについて、地域での相談会がマンネリ化している感がある。なにか工夫をした上で継続して欲しい。
	第4回	・認知症で支援が必要になるケースは多いが、若い世代は包括支援センターを知らない。若い世代も含めた周知や認知症への理解をはかっていくことが必要。 ・支援困難ケースにおいては、多職種連携は必須。地道な取組みが必要。
城東区	第1回	・積極的に訪問活動を行っている事業所がある。訪問活動を熱心に行うことは、望ましいと考える。 ・地域にアンケート調査を行う新しい取組みを展開している事業所があり。安否確認などにも活かせる熱心な活動である。
	第3回	・相談件数が増加しているため、今後も引き続き努力してもらいたい。
	第4回	・まとめの地域ケア会議の実施回数について包括間で差がある。積極的に開催することが必要。 ・地域ケア会議の参加者やその数に差がある。多くの関係機関の参加を得ることで様々な意見をきくことができる。 ・認知症の問題が多くみられるので、認知症初期集中支援チーム(オレンジチーム)の参加を促進していく必要がある。 ・個人情報の問題が取り上げられたが、民生委員は守秘義務があるので、今後も連携をはかるように。地域の見守り等の支援の協力を得ることができる。
鶴見区	第4回	・キーマンからの本人の認知症情報が得にくい。地域・施設での勉強会は継続必要。 ・元気に過ごせるようにすることで孤立も防止できるため、健康寿命を延ばす取組みが必要なのではないか。 ・孤立しないように自助していくことを啓発する。 ・若年高齢者の社会参加を促す。後期高齢者について情報共有しながら把握していけるしくみが必要ではないか。
阿倍野区	第2回	・小地域での勉強会を実施しているところは、ほとんどが高齢者の参加となっている。小学校でも福祉教育をしているが、若い人に来てもらわないといけない。今後、多岐にわたって、ますます重要になる。
	第4回	・福祉教育について、区内の全小中学校で実施し、子どもの時から、高齢者問題に関心を持ち、地域のつながりに参加できる機会が大切 ・社会福祉施設も社会資源として捉えていただきたい ・赤バスの廃止により、高齢者の移動手段が奪われ、生活圏が縮小している
住之江区	第1回	・医療機関との連携で、地域の開業医との連携が難しいとの発言があった。医療機関訪問でアポイント必須。作成している「地域医療・介護サービス資源一覧」ファイルをぜひ活用していただきたい。各医療機関にアンケートに協力していただいており、ファイルには様々な情報がある。今後のためにもファイルを活用し対応していただきたい。
	第2回	・前年度と比較してみるとあまり変わらない取り組み報告がある。前年度の「取組み・今後の課題」に対して今年度どう活動したかが見えにくい。強化した取り組みが報告書の中ではわかりにくかった。
	第3回	・今後もっとネットワークを大きくしていく必要があり。障害者も高齢化していく。高齢者と障害者の複合の問題を抱えたケースも増えている実感あり。今後もっとケアマネとも関っていく必要があると感じている。次世代の人材育成も重要だと考えている。
	第4回	・認知症と権利擁護は密接に関係している。認知症初期集中などの事業につながっていているので今後期待したい。障がい、高齢と含めた複合的問題や医療との連携が、今後取り組むべき課題としては重要となってくる。
住吉区	第2回	・域のネットワーク構築を包括が担っているため、相談窓口は「包括」と映っている。ネットワークづくりはランチとともに進めてきたので徐々に地域にも知られるようになってきた。一人配置なので、法人のバックアップや包括の支援は必須である。 ・認知症の方や高齢者の方が集える場をもっと周知してほしい。 ・認知症カフェはより身近な地域での展開が必要。
	第3回	・認知症カフェが住吉区には少ない。もっとあちこちにできたらいい。普通のふれあい喫茶ではなく、認知症の方が安心して利用できることが必要。 ・当事者が1人で参加される場合、送迎をしないと来ることができない方についてはランチや包括が送迎しているが、人数的に限界がある。送迎にボランティアをつけることができないので、せっかく楽しみにしている方が続けて参加出来ないことを残念に感じている。 ・定期的に民生委員と継続した連携をとることで少しずつ相談が寄せられる仕組みができていく。 住吉区で地域包括ケアシステムの中核に添えた地域見守り支援システムと包括が構築するネットワークとどう繋いでいくかということがこの運営協議会で協議することが課題である。
	第4回	・包括がどこまで仕事を担うのか？包括が精神障がい者、身体障がい者への学習のチャンスを作らないといけないのか。昨年4月から障がい者差別解消法ができたが、それも絡めて障がい者の方の学習は区役所でしたらいいのではないのか？区役所の障がい担当は事務処理で手いっぱいなので、障がい者相談支援センターが学習会をすればいいのではないのか。精神保健相談員が今1人体制であるが、人口が多い区なので相談員を複数対応するか、非常勤職員の配置が必要なのではないかと思う。

区	回次	意見要旨
東住吉区	第2回	・独居の高齢者が増加している。今川ではボランティアがまめに把握してくれている。つながりノートも勧めてくれている。もし地域で活動の場所が無いなら言ってもらえば、委員から町会に話をするなど協力していきたい。
	第3回	・ランチから町会に声をかけてもらった方が町会として動きやすい。活動したいことがあれば相談してほしい。
	第4回	・地域との繋がりが希薄になっているので、町会との連携が必要であり、町会に入っていない人をどうしていくのが課題である。 ・個々の健康管理・早めの受診・早期に相談につながる事が自助である。介護予防の観点と介護に早くつながるシステムづくりが大切。
平野区	第1回	・各包括においては、町会や集合住宅の管理組合への回覧の協力依頼、地域行事に参加し顔の見える関係づくり、喫茶や食事サービス等高齢者の集まる場所でのビラ配布などかなり努力している。しかし、包括の認知度が上がらないところもあり、区や市の行政の役割も重要である。 ・医療ニーズの多い地域であるが、地域包括支援センターには1名の医療職しかいないため、区の地域保健活動担当も含めたバックアップを期待している。
	第2回	・地域ケア会議から見えてきた課題以外の活動報告が記載されている包括があるので、課題に対する活動報告が明確に見える報告書を作成してほしい。 ・高齢者支援は医療と介護の連携が大切であると思う。医師会理事会にて、地域包括支援センターの活動報告をしてはどうか。
	第3回	・ネットワークの構築の成功は、地域住民の関心の高さが必要であり、継続的に住民への周知活動が重要である。各地域の特色ある活動について、周知度、理解度などの成果を見せることで地域に根差した活動になっていく。良い取り組みは、平野区全体に広がるように連携してほしい。
	第4回	・地域ケア会議は虐待や処遇困難ケースだけでなく、総合相談からの多岐にわたる地域課題を抽出し、予防的取組みも行ってほしい。 ・地域コミュニティの低下について、連合加入率も地域によって偏りが大きく、集合住宅は低く、戸建ては高い傾向にある。地域づくりを考えるうえで、区や包括、医療機関、介護保険等事業所など各々が考えるのではなく関係機関と地域全体で考えていく必要がある。 ・ケアマネージャーも経験に差があり、処遇困難ケースや包括や他機関との連携や処遇が考えられないこともある。研修や勉強会を実施しスキルアップを図ってほしい。
西成区	第2回	・応用評価基準結果について、昨年度と比べて記録や作成資料の充実が目立った目的や評価、実施のプロセスが目に見える形で残されている職員で共有し、次年度につながる記録になっている。
	第3回	・どの包括もすごい取り組みをしていると感じる。Xひいきを支える新しい人がなかなか出てこず、今まで地域を支えてきた人たちは疲弊している。これから地域をどうするか。これまでのような、「支える・支えられる」の関係は限界。期間ごとのネットワークより住民同士のネットワークが必要。
	第4回	地域の見守りが入りにくいマンションには、包括に介入してもらい、地域はそこでつながった人を受け止める場を作っていく必要がある。